

「世界青年の船」事業の変遷

	概要	参加青年数	運航形態・日数
「青年の船」事業 (昭和 42～62 年度)	明治百年記念事業の一つとして、当時、日本の若い青年が自力で海外に行くことが非常に困難であった時代に、政府が実施主体となって日本青年を海外に派遣するという、日本国中の青年に大きな夢と希望を与えた事業。	S62 年度： 日本青年 289 名 外国青年 46 名	海外運航 (S62：54 日間) (※1)
「世界青年の船」事業 (昭和 63 年度～平成 24 年度)	「青年の船」事業を我が国の国際的役割の増大、社会の各分野における国際化の進展を踏まえた上で見直して「世界青年の船」事業に発展的に改組し、平成 24 年度までに 25 回実施。現事業の基礎となる研修的内容が付加される。	S63 年度： 日本青年 103 名 外国青年 175 名	海外運航 (S63：71 日間)
グローバルリーダー育成事業 (平成 25 年度)	「世界青年の船」事業を継承するものとして実施。国内運航。	日本青年 87 名 外国青年 71 名	国内運航 (※2) (9 日間)
グローバルユースリーダー育成事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」(平成 26 年度)	「世界青年の船」事業及び「グローバルリーダー育成事業」を継承するものとして実施。国内運航。	日本青年 108 名 外国青年 96 名	国内運航 (※2) (12 日間)
次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」(「世界青年の船」事業) (平成 27 年度～令和 4 年度)	グローバル化対応を牽引・指導するリーダーを育成するものとして実施。 「世界青年の船」事業、グローバルリーダー育成事業、グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」を発展的に改組。海外運航。平成 29 年 1 月より名称を「世界青年の船」に変更。	日本青年 120 名 外国青年 120 名	海外運航 (※3) (34 日間)
「世界青年の船」事業 (新プログラム) (令和 5 年度～)	時代の要請の変化を踏まえ、「国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダー」育成の観点からプログラムを大胆に見直すべく実施された「青年国際交流事業の在り方検討会」(令和 4 年 6 月報告書とりまとめ)での議論を基に、令和 5 年度より新プログラムを開始。国内運航で、地域実践活動プログラムを新たに導入。	日本青年 80 名 外国青年 96 名	国内運航 (25 日間)

※1 訪問国等の外国青年を日本に招へいし、往路のみ乗船させて船内で交流後、各訪問国で下船。

※2 船上研修後、日本参加青年のみ 4～5 グループに分かれて空路で海外研修。

※3 コロナ禍のため、令和 2、3 年度はオンライン事業、令和 4 年度は外国青年の招聘のみにて実施。